

女の人たちも収穫した農作物を無駄にすることなく、
知恵を受け継ぎながら、それぞれ工夫して
がんばっているんだな。

ソミヤは生き生きと暮らす人びとの姿に自分を重ね
合わせていました。

私も今からでも、そんな技を一つでも受け継ぐことが
できるかもしれない。

最初は里山には何もないように思い、不安に感じていた
ソミヤでしたが、だんだんとまわりの風景がキラキラと
可能性にあふれたものに見えてきました。

